

団体名

BWC

見出し

13年度研修会を実施

北関東の寝具工場など視察

写真説明

足工大で睡眠科学研究の“ミニ講義”を受けるBWC一行

本文

ベストウールクラブ（BWC・野村利泰会長）の13年（平成25年）度事業計画の1つである「研修会」が、6月13、14の両日、北関東地区の寝装・インテリアメーカーの工場視察を中心に開催されました。

両日は正・賛助会員ら8人が参加。まず、群馬県邑楽郡邑楽町の榊朝倉ジャージーを訪問しました。

榊朝倉ジャージー（矢管實社長）は、縫製品OEM、布製品OEMの縫製工場として64年（昭和39年）5月に創業。“あらゆる面から縫製品の可能性を追求している”同社では、寝装品、業務用寝具、ベッド用品、カバー類など、多岐にわたる製品を生み出しています。

工場では、裁断からわた詰め、縫製、検品、梱送までの一貫製造・出荷工程を熱心に見学しました。

続いて、栃木県足利市の塚原榊（塚原達也社長）のニット工場を視察しました。

同社は65年（昭和40年）11月に設立。“癒（いや）し・安らぎ・安心”をテーマに、生活リビング用品から介護用品まで、多彩な商材を提案。顧客との共同企画、独自の企画により糸の選定から、自社工場での編立・染色プリント加工を一貫して行っています。

また、自社工場の設備の充実によって、小ロット・短サイクルのオーダーに対応する生産体制を確立しています。一行は、一連の作業工程に、鋭い視線を投げ掛けていました。

翌日は、同市の足利工業大学（牛山泉学長）を訪問。睡眠科学研究の最前線で活躍しているシステム情報工学科（小林敏孝教授・工学博士）人間情報工学研究室の荒川一成講師による“ミニ講義”が行われ、その現状の一端を学びました。

同研究室では、日本睡眠環境学会賛助会員の企業数社と共同研究を行っています。学生の卒業研究もこれに関連してくるため、良い刺激となって卒研生は緊張しながら勉強しているといいます。また、卒研テーマの成果が製品化に現れています。

この後、群馬県太田市のコーワ榊（萩原由大社長）のキルトパッド・ケット、ベッドパッドなどの工場を見学しました。

同社は81年（昭和56年）2月に設立。大手インテリアメーカーやベッドメーカーなどから、ホテル・旅館向けのベッドリネン（パッド、スプレッド、枕ほか）を受注し、安定した業績を残しています。

参加者は、生産性の向上を果たす高性能の多針キルトマシンなど、最新設備の稼働に目を奪われていました。